

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/09

株式や商品市場でのリスク回避の思惑がくすぶる

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	豪 4 月雇用統計に注目	2 - 3
		予想レンジ: 84.30 ~ 87.70 円	
<u>NZドル/円</u>	➡	株価や商品市況をにらみながら	4 - 5
		予想レンジ: 61.70 ~ 65.70 円	
<u>ランド/円</u>	➡	SARBは政策金利よりも声明か	6 - 7
		予想レンジ: 11.80 ~ 12.30 円	
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 5/2~6の主な推移



5/2 Monday	<p>「国際テロ組織アルカイダのビンラディン氏死亡」との報道により、中東情勢が安定するとの観測から、時間外のNYダウ平均先物が急騰した。これを受けリスク積極化の動きから、豪ドル/円は上昇した。また、この報道を好感して欧州株が高く始めると、豪ドル/円は89.30円の高値をつけた(①)。</p>
5/3 Tuesday	<p>豪準備銀行(RBA)は市場の予想通り、政策金利の4.75%据え置きを決定。その後の声明で基調インフレは今後上昇するとの見方を示し、今後数カ月以内の利上げに含みを持たせたものの、早期の利上げを思わせる内容が出なかった事から、豪ドル/円は小幅安で推移した(②)。その後は欧州株の軟調推移を背景に、豪ドル/円は弱含みで推移した。</p>
5/5 Thursday	<p>豪3月小売売上高は前月比-0.5%と予想(同+0.5%)を下回った。予想外の悪化を受けて豪ドル売りが強まると、豪ドル/円はその後86.03円まで値を下げた(③)。その後も時間外の原油価格や欧州株の下落により、豪ドル/円は続落。さらにNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、豪ドル/円は84.30円の安値をつけた(④)。</p>
5/6 Friday	<p>RBA四半期金融報告にて、2011年の基調インフレ率を2.75%から3%に引き上げ、「ある時点でより高い金利が必要となる見通し」と伝えた。これらを手掛かりに豪州の金利先高観が強まると、豪ドル/円は86.35円まで上昇した(⑤)。米4月雇用統計では市場予想を上回る非農業部門雇用者数の増加が示され、ドル/円が上昇すると、豪ドル/円はこの動きに連れる形で87.04円まで値を上げた(⑥)。</p>

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

先週は予想を下回る米経済指標が相次ぎ、高値圏にあったNYダウ平均や商品相場の下落を背景に、豪ドル/円は大きく値を下げた。相場が大きく動いた直後につき、今週も豪ドル/円は株価や商品市況に左右されやすいと見られ、株安・商品安の場面では豪ドル/円は弱含みとなりやすいと見る。一方で先週の下げに対する反動も予想され、株価や商品市況が値を戻す場面では豪ドル/円も反発余地が生まれそうである。

また12日には、豪4月雇用統計の発表が予定されている。本稿執筆時点での市場予想は、失業率が前月と変わらず4.9%、雇用者数変化は1.7万人増となっている。6日に公表された豪準備銀行(RBA)四半期金融報告では、鉱業投資が失業率を押し下げ、インフレの加速により、ある時点での利上げの必要性に言及している。今回、豪州での好調な雇用状況が示されれば、RBAの近い将来の利上げを織り込む動きへとつながり、豪ドル買いが強まることも考えられる。一方で予想外の悪化が伝えられる場合には、年内の利上げ観測が遠のき、豪ドルが売られる場面も想定される。

そのほか、中国では11日に4月消費者物価指数の発表が予定されている。仮にインフレの高進により中国の利上げ観測が高まるようだと、中国経済の減速懸念から中国と経済的結び付きの強い豪州経済にも影響が及ぶとの思惑から、豪ドル/円は弱含む場面も予想される。(川畑) (予想レンジ: 84.30~87.70 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

— 20日線 — 60日線 — 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

— +2シグマ — -2シグマ



●AUD/JPY 5/6週足引値:86.20円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は4/28には一時89.57円まで上昇するも、90円目前で反落すると、その後はWトップのネックラインと目される85.99円(4/18安値)を割り込み、下げが加速する場面が見られた。これにより当面は90円の대가が上値抵抗となりやすく、戻り上値では売り優勢となることも予想される。

ボリンジャーバンドは5/6現在、上限:89.86円~下限:85.53円と、ローソク足が一時的にバンド下限を下抜ける場面が見られた。その後すぐにローソク足はバンド下限より上に戻しており、目先の下押しは一服の可能性はある。ただ再び割り込む場合、一段の下げへとつながることも考えられる。

移動平均は20日線(5/6時点では87.70円)が下向きとなり、上値抵抗となりそうである。一方、60日線(同、85.01円)、200日線(同、81.98円)いずれも上向きにつき、今回の下落局面では60日線が下値として機能した。ただ再び60日線を割り込む場合、次は反発力が弱まり、下値が深くなることも考えられる。

上値ポイントは①87.04円(5/6高値)、②引値レベルで87.70円(20日線)、③89.57円(4/28高値)であり、下値ポイントは①引値レベルで85.01円(60日線)、②84.30円(5/5安値)、③83.38円(3/17安値74.25円-4/11高値90.00円の値幅15.75円の1/2下押し)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 5/2~6の主な推移



5/2 Monday	「国際テロ組織アルカイダのビンラディン氏死亡」との報道により、中東情勢が安定するとの観測から、時間外のNYダウ平均先物が急騰した。これを受けリスク積極化の動きから、NZドル/円は上昇した。また、この報道を好感して欧州株が高く始めると、NZドル/円は65.86円の高値をつけた(①)。
5/4 Wednesday	米4月ADP全国雇用者数や米4月ISM非製造業雇用者数が相次いで予想を下回り、NYダウ平均が200ドル以上急落した。これを受けリスク回避の動きが強まると、NZドル/円は一時63.38円まで下落した(②)。
5/5 Thursday	NZ第1四半期失業率は6.6%と事前予想(6.7%)を下回り、また前回数値も修正(6.8%→6.7%)された。発表直後の市場ではNZドル買いが強まり、NZドル/円は64.05円まで上昇した(③)。しかし時間外の原油価格や欧州株の下落を背景に、その後NZドル/円は62.54円の安値をつけた(④)。
5/6 Friday	米4月雇用統計では市場予想を上回る非農業部門雇用者数の増加が示され、ドル/円が上昇すると、NZドル/円はこの動きに連れる形で64.25円まで値を上げた(⑤)。

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

NZD / JPY

今週の見通し

今週、NZでは主だった経済指標の発表が予定されていない。先週は商品安・株安によりリスク回避の動きが強まる場面があり、今週も同様の展開が続くようであれば、NZドル/円には下げ圧力が掛かりやすい。一方で株高・商品高の展開となったとしても、相場下落の直後であることから、市場はすぐに楽観的な見通しのもとに株式や商品を買進めるとは考えにくく、NZドル/円の上昇は限られる可能性もある。

そのほか、中国では11日に4月消費者物価指数の発表が予定されている。仮にインフレの高進により中国の利上げ観測が高まり、豪ドル/円が弱含むようだと、短期的にはNZドル/円も連れて弱含む展開となる可能性がある。(川畑)

(予想レンジ:61.70~65.70円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●NZD/JPY 5/6週足引値63.73円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は4/6に66.71円まで上昇したが、その後の下押しは64.44円に留まり、その中でレンジ的推移が続いた。しかし20日線に上値を抑えられる展開が続くと、その後200日線までの下げを演じた。同線で反発し、また5/6の足形は直近の陰線を上抜いており、戻り余地はあると見られる。ただ今後は66.71円を突破できないうちは、戻り上値では売り優勢となることも考えられる。

ボリンジャーバンドは5/6現在、上限:66.76円～下限:64.67円と、先週に続きバンド幅は縮小に向かっている。ローソク足が上下どちらかバンドを突破した方に今後の方向感が出ることも予想される。

ローソク足は20日線(5/6時点では65.29円)を下抜け、上値抵抗となっている。ただ60日線(同、62.97円)や200日線(62.52円)が下値として機能しており、目先は反発余地がありそうだ。

上値ポイントは①64.44円(4/18安値)、②65.74円(20日線)、③66.71円(4/6高値)であり、下値ポイントは①62.97円(60日線)、②62.52円(200日線)、③61.73円(2010年12/23)安値である。(川畑)

ZAR/JPY

ランド/円 5/2～6の主な推移



5/2 Monday	「国際テロ組織アルカイダのビンラディン氏死亡」との報道により、中東情勢が安定するとの観測から、時間外のNYダウ平均先物が急騰した。これを受けリスク積極化の動きから、ランド/円は12.40円まで上昇した(①)。
5/3 Tuesday	南アフリカ第1四半期失業率は25.0%と前回(24.0%)を上回った。しかし、市場の反応は限定的であった(②)。
5/4 Wednesday	米4月ADP全国雇用者数や米4月ISM非製造業雇用者数が相次いで予想を下回り、NYダウ平均が200ドル以上急落した。これを受けリスク回避の動きが強まると、ランド/円は一時12.04円まで下落した(③)。
5/5 Thursday	時間外の原油価格や欧州株の下落により、市場ではリスクを取る事に消極的となる中、米新規失業保険申請件数が予想外の増加を示した。これにより米景気の減速が懸念されると、ランド/円は一時11.79円まで値を下げた(④)。
5/6 Friday	米4月雇用統計では市場予想を上回る非農業部門雇用者数の増加が示され、ドル/円が上昇すると、ランド/円はこの動きに連れる形で12.10円まで値を上げた(⑤)。

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

今週12日、南アフリカ準備銀行(SARB)の政策金利発表が予定されている。市場では政策金利を5.5%に据え置くとの予想がコンセンサスとなっており、その時の声明に注目が集まりそうだ。南アフリカの経済指標をみると、インフレ率は昨年9月を底に上昇している一方、3日発表の失業率は悪化する中、SARBが今後の南ア経済についてどう見るかがポイントとなろう。仮に国内総生産(GDP)の伸び率やインフレ率の見通しを引き上げるなど、南ア経済に強気の見通しを示す場合、ランドは買われやすい。一方で弱気な見通しを示すようだと、ランドが弱含む場面も予想される。

そのほか、先週は商品安・株安によりリスク回避の動きが強まり、ランド/円は値を下げる場面が見られた。今週も同様の展開が続くようであれば、ランド/円には下げ圧力が掛かりやすい。一方で株高・商品高の展開となったとしても、相場下落の直後であることから、市場はすぐに楽観的な見通しのもとに株式や商品を買い進めるとは考えにくく、ランド/円の上昇は限られる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:11.80~12.30円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ZAR/JPY 5/6週足引値:12.33円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は4/28高値12.44円以降は下値模索の動きが続いたが、バンド下限や200日線に何とか支えられて反発した。ただ今回の下げにより、週足レベルでは20週線とバンド上下での往来相場が続いており、上値模索の動きが先行したことから、目先は下値を試す動きが先行しやすいと見る。また反発局面が出たとしても、戻り高値では売り優勢となることも考えられる。ボリンジャーバンドは5/6現在、上限12.54円～下限:11.86円と、バンド下限にて辛うじて下支えされた。ただ今後ローソク足がバンド下限を押し下げる場合、一段の下げ余地が生まれる可能性がある。移動平均は20日線(5/6時点では12.20円)が下向きとなり、上値が重い。ただ60日線(同、11.97円)、200日線(同、11.88円)がほぼ横向きとなり、一応は下値として機能している模様ではあるが、これらを下抜ける場面では一段の下落トレンド入りとなる可能性も出てくる。

上値ポイントは①12.20円(20日線)、②12.31円(4/18安値11.92円～4/28高値12.44円の値幅0.52円を、5/5安値11.79円に加えた値)、③12.44円(4/28高値)であり、下値ポイントは①11.86円(バンド下限)～11.88円(200日線)、11.79円(5/5安値)、③11.67円(3/17安値10.50円～4/8高値12.84円の値幅2.34円の1/2戻し)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/9~12)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/9	15:00		(独) 3月経常収支	+89億EUR	—
(月)	15:00		(独) 3月貿易収支	+121億EUR	—
	21:15		(加) 4月住宅着工件数	18.88万件	18.30万件
5/10			香港休場(ブダ・フェスティバル)		
(火)	10:30	○	(豪) 3月貿易収支	-2.05億AUD	—
	16:15		(スイス) 4月消費者物価指数 [前年比]	+1.0%	+0.6%
	21:30		(米) 4月輸入物価指数 [前月比]	+2.7%	+1.8%
	23:00		(米) 3月卸売在庫 [前月比]	+1.0%	+1.0%
	26:00	○	(米) 3年債入札(320億ドル)	—	—
5/11			(日) 3月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	104.2	99.8
(水)	14:00		(日) 3月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	106.8	103.6
	15:00		(独) 4月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.2%	—
			(独) 4月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.4%	—
	17:30	○	(英) 3月商品貿易収支	-67.76億GBP	-77.00億GBP
	18:30	◎	(英) BOE四半期インフレレポート	—	—
	21:30	○	(米) 3月貿易収支	-458億USD	-470億USD
	21:30		(加) 3月国際商品貿易	±0.0億CAD	±0.0億CAD
	27:00	○	(米) 4月月次財政収支	-1882億USD	-650億USD
	26:00	○	(米) 10年債入札(240億ドル)	—	—
5/12	08:50		(日) 3月経常収支	1兆6410億円	1兆7375億円
(木)	08:50		(日) 3月貿易収支	7233億円	3034億円
	10:30	◎	(豪) 4月新規雇用者数	3.78万人	—
	10:30	◎	(豪) 4月失業率	4.9%	—
	14:00		(日) 4月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	27.7	—
			(日) 4月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	26.6	—
	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	17:30	○	(英) 3月鉱工業生産 [前月比]	-1.2%	+0.8%
	17:30		(英) 3月製造業生産高 [前月比]	±0.0%	+0.4%
	18:00	○	(ユーロ圏) 3月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.4%	—
	21:30	◎	(米) 3/7までの週の新規失業保険申請件数	47.4万件	—
		○	(米) 4月生産者物価指数 [前月比]	+0.7%	+0.6%
		○	(米) 4月生産者物価指数 [コア:前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(米) 4月生産者物価指数 [前年比]	+5.8%	+6.5%
		○	(米) 4月生産者物価指数 [コア:前年比]	+1.9%	+2.1%
	21:30	◎	(米) 4月小売売上高 [前月比]	+0.4%	+0.6%
		◎	(米) 4月小売売上高 [前月比:除自動車]	+0.8%	+0.6%
	21:30		(加) 3月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	23:00		(米) 3月企業在庫 [前月比]	+0.5%	+0.9%
	未定	○	(南ア) SARB政策金利発表	5.5%	—
	26:00	○	(米) 30年債入札(160億ドル)	—	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/13)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/13 (金)	15:00	○	(独) 第1四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.4%	—
		○	(独) 第1四半期GDP・速報値 [前年比]	+4.0%	—
	18:00		(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.3%	+0.6%
			(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値 [前年比]	+2.0%	+2.3%
	21:30	◎	(米) 4月消費者物価指数 [前月比]	+0.5%	+0.4%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.1%	+0.2%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [前年比]	+2.7%	+3.1%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [コア:前年比]	+1.2%	+1.3%
	22:55	◎	(米) 5月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	69.8	70.0

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com